

# 北海道新聞

2005年(平成17年)6月29日(水)(夕刊)

TOKAICHU

十  
時の農産物の高付加価値化  
を目指す「都市エリア農学官連携促進事業」  
を担当する(文部科学省所轄)の  
連携促進事務官(文部科学省所轄)の  
科学技術コーディネーターに、今月就  
任した。一九六六年から年間、情報  
任して、一九九〇年から年間、情報  
研究室大 地域共同研究センターの客員  
教授を務めたりとおり、「大学などで  
の基礎研究を専門化して続けていたい  
と想はざる。」「研究室の目的は、食品の「機能性」  
に注目した商品開発。「例えば、ソ  
ルチアンには肌荒れを防ぐ機能性があ

十勝人

都市エリア農学官連携促進事業の  
科学技術コーディネーターに就任

佐山 こうじ  
晃司さん

研究室は九八年、「地域活性化共同研  
究事業」(同省所轄)に于賀が唯一  
農産物の強さによって「ちえた」  
事業の柱の一つとして、ソバや豆類  
のスマート(新芽)生産上場を着実、  
冬季もためた雇用を創出する、パレイ  
シやチーズに関する調査研究も定  
着する。

研究室の柱の一つとして、ソバや豆類  
のスマート(新芽)生産上場を着実、  
冬季もためた雇用を創出する、パレイ  
シやチーズに関する調査研究も定  
着する。

研究室は九八年、「地域活性化共同研  
究事業」(同省所轄)に于賀が唯一  
農産物の強さによって「ちえた」  
事業の柱の一つとして、ソバや豆類  
のスマート(新芽)生産上場を着実、  
冬季もためた雇用を創出する、パレイ  
シやチーズに関する調査研究も定  
着する。

## 地元農産物からヘルシー商品を

ります」と説明する。これまで知られ  
ていなかつた機能性を活かし、土産の  
農産物の強さによって「ちえた」  
事業の柱の一つとして、ソバや豆類  
のスマート(新芽)生産上場を着実、  
冬季もためた雇用を創出する、パレイ  
シやチーズに関する調査研究も定  
着する。

任時は三年。「じき北海道の世代の

研究者が上級に昇ります。『平均

張って、次の人にうなづけたい』

札幌出身で、北大農学部卒。『道内

の良品製造業に就職したい』と日本菓業

研究者から上級に昇ります。『平均

張って、次の人にうなづけたい』

札幌出身で、北大農学部卒。『道内

の良品製造業に就職したい』と日本菓業



「できるものは、初年度から商品化していくと思います」